

季節による自然の移り変わりを身近に感じるために

(1) 年間を通した観察をするために

本学習内容においては、「身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにすること」をねらいとしています。その中で「植物の成長について、同地点で同一の対象を定期的に観察するようにする。また、動物の活動や植物の成長については、観察したことを図や表などに整理することが考えられる」（学習指導要領解説理科編より）としています。そこで、植物の観察として、樹木の継続観察を紹介します。

(2) 自分の木、枝を選ぼう

植物を観察する時に「季節による自然の変化」について、定期的に観察するという視点においては、樹木を選択するのが適当だと思います。花壇にある植物でも「観察をする」ためには十分ですが、「年間」という視点においては樹木の方が適していると思います。学校の敷地内には、多種の樹木があると思いますが、その中でも「桜の木」を勧めます。もちろん学校敷地内には、桜の木以外にも多くの樹木があると思いますが、身近であることや、季節によって成長に伴う変化が明確であることなどの点で、桜の木は継続観察対象として適当であると考えられます。桜としては「ソメイヨシノ」が一般的ですが、「ヤエザクラ」なども適していると思います。福島県は例年、4月中旬が桜の見頃の時期になるので、初めに学習する時期と満開になる時期とが都合良く合致する点においても、観察に適していると言えると思います。桜の木以外には、「ウメ」「イチョウ」「コブシ」などが考えられると思います。それぞれ、学校の環境に応じて選択していただきたいと思います。

樹木の選定ができれば、子どもたちに「自分の枝」を選ばせます。子どもたちには一年間を通して観察するという見通しをもたせ、観察しやすい枝を選択させます。その際、枝にカラー針金などの目印を付けてははいかがでしょうか（右写真参考）。自分が選んだものとして意識が高まり、観察する意欲も高まると思います。



観察カードに記録する内容については、枝の様子はもちろんですが、生き物の名前、月日と時刻、気温など、理科の観察スケッチの時にはたくさんの情報を記録することについて指導します。その点は、これからの観察（月や星の観察、天気観察など）につながっていくからです。季節が移り変わり、成長に伴って変化していく様子を観察していきましょう。年間を通した観察カードが仕上がったら、手作りのアルバムを作って振り返りましょう。

